

# 令和7年度第1回流域委員会における ご意見とその対応

令和8年1月21日

国土交通省 中部地方整備局  
沼津河川国道事務所

項目	No.	ご意見	対応
狩野川水系 河川整備計画の点検 (治水・利水)	1	令和元年東日本台風では本川からの破堤はなく、浸水被害は軽減されているものと思われる。今後は内水被害の軽減が課題と思われるので、流域治水をしっかりと進め、土地利用規制を考える必要がある。 【北村委員】	狩野川流域では、災害リスクを考慮した土地利用を進めるため、立地適正化計画の作成が進んでおり、狩野川の国管理区間流域7市町全てで、策定済となっています。 流域治水協議会等で情報交換する等、沼津河川国道事務所も協力し、内水被害軽減に流域で動いています。 次期整備計画において、内水被害の軽減や流域治水の推進に関する記載の検討を行います。 (【参考①】P5)
	2	近年、狩野川流域での渇水被害が発生していないが、今後は渇水リスクの可能性はある。渇水時の対応について関係者と協力して頂きたい。また、流域治水に関して、水田貯留やため池の活用など、治水、利水が連携、協力して進めていただきたい。 【絹村委員】	ご意見のとおり、近年狩野川流域では渇水被害は起きておりませんが(【参考②】P6)、気候変動等に伴って今後発生するリスクがございます。 渇水が発生した場合には、水利用者による水融通の円滑化等を関係機関と連携して推進します。 また、令和5年8月の基本方針変更にて新たに定められた、渇水の見込みとなる正常流量を、次期河川整備計画に記載します。

項目	No.	ご意見	対応
狩野川水系 河川整備計画の点検 (環境)	3	今回の河川整備計画の変更の際に、どのような種に着目していくかに関する意見聴取をしていただきたい。 【板井委員】	河川整備計画の変更において、河川環境の整備と保全に関する目標の検討にあたっては、既往の調査結果などを踏まえた保全・回復優先種の設定などを行っていきます。設定にあたっては有識者のご意見を参考にさせて頂きたいと考えています。 (【参考③】P7、8)
	4	アオハダトンボの生息環境については、今後も検討及び対策を続けていただきたい。 【花井委員】	アオハダトンボは継続してモニタリングを実施しているところであり、環境DNA等の新技術も含め今後とも調査・検討・対策を実施していきます。
	5	たまり・ワンド等の環境が減少傾向であることは現状として重く考えて頂き、それらの保全、再生する計画としていただきたい。 【板井委員】【北村委員】	ワンド・たまりなど、生物の生息・生育の場として重要な環境について、保全・創出ができるよう、次期整備計画において、目標に関する記載の検討を行います。
	6	国外外来種(移植種)については掲載されている種以外に、現在ではコウライオヤニラミなどが生態系に大きく影響を及ぼしている。また、国内外来種(在来種)など生態が似ている種の侵入によって、狩野川流域の生態系に影響を与える可能性が高い。移植種ばかり抽出され、在来種が考えられていないため、狩野川流域全体の生態系を把握した上で種の選定をした方が良い。 【川嶋委員】【花井委員】	国外外来種に着目し整理してきたところですが、国内外来種においても生態系に及ぼす影響を想定した上で調査していきます。

項目	No.	ご意見	対応
狩野川水系 河川整備計画の点検 (環境)	7	ブタクサが増加し、ヨシが減少傾向であるのは、水辺のエコトーン <sup>①</sup> の減少が考えられ、オーダーメイド設計で水際に寄り州ができるような低水護岸法線の位置や護岸形状の多孔質化など工夫が出来ると良い。 【北村委員】	ワンド・たまりや水生植物帯は減少傾向であり、この対策として護岸形状や河道掘削を実施する上で工夫していきたいと考えています。
	8	TNFD等の民間事業者の活力を活用し、自然環境の改善に取り組んで頂きたい 【知花委員】	良好な自然環境の保全・創出にあたっては、関係機関、地域住民に加え、民間事業者との連携も重要であると認識しています。 次期整備計画において、民間事業者との連携に関する記載の検討を行います。
	9	人と川の触れあいの場の整備は、川への関心を高めることが出来る事業であり、狩野川では進んでいるため、引き続き推進していただきたい 【花井委員】	狩野川はかわまちづくりが3カ所あり、川の利用に関心が高い地域であると認識している。今後とも積極的な河川の活用を推進していきたいと考えています。
	10	河川環境に生息する種が必要とする土砂の粒径や粒度があると想定されるため、学識経験者の知見も踏まえながら整理・検討していくことが必要である。 【知花委員】	生息する種が必要とする河床の粒径等については、大規模出水により河床変動が生じた際などに実施する河床材料調査等のモニタリングや定期的な河川水辺の国勢調査、学識経験者のご意見等を踏まえながら、知見を積み重ねていきたいと考えています。

項目	No.	ご意見	対応
狩野川水系 河川整備計画の点検 (総合土砂)	11	<p>基本方針にて記載した山間部における土砂管理について、今後の整備計画変更にあたっても記載をしていただきたい。</p> <p>【知花委員】</p>	<p>狩野川本川は土砂移動を妨げる横断工作物を有さず、近年の狩野川においては、代表粒径に大きな変動はみられず、河床は概ね動的平衡状態にあると想定しています。</p> <p>(【参考④】P9、10)</p> <p>狩野川上流域の山間部を有する伊豆市では、国直轄の砂防事業や、伊豆市等による森林整備によって、山間部における土砂災害等の防止に努めています。</p> <p>(【参考⑤】P11)</p> <p>山間部における土砂管理について、砂防堰堤等の整備や森林整備で、土砂災害から命や資産を保全しつつ、継続したモニタリングが出来るように、次期整備計画の記載を検討します。</p>



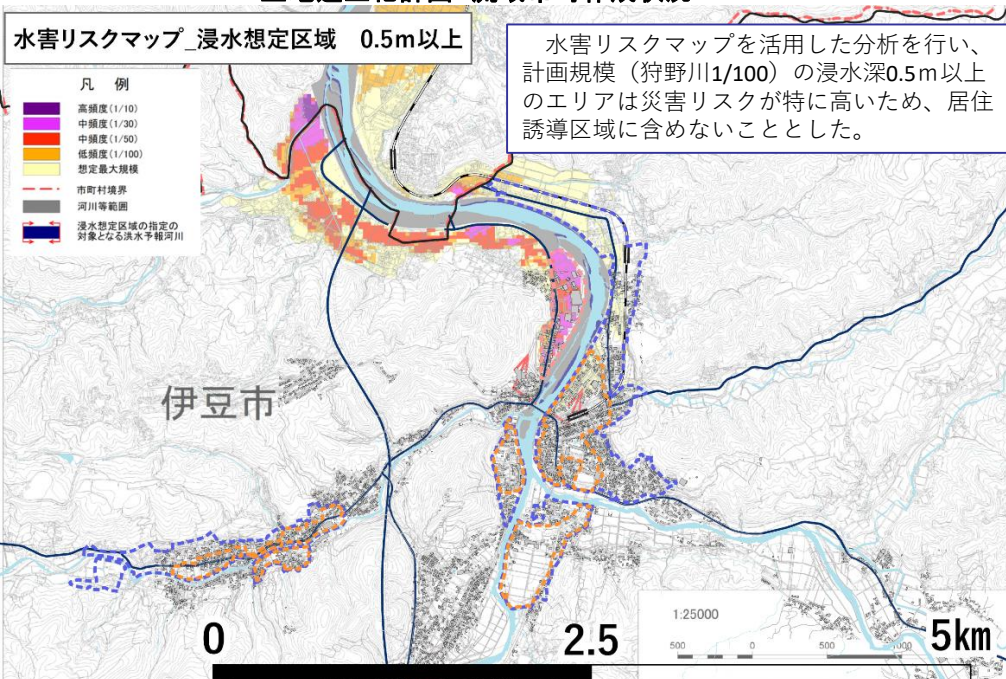
○令和7年時点で狩野川の国管理区間の流域7市町(伊豆市、伊豆の国市、函南町、三島市、清水町、長泉町、沼津市)全てで、立地適正化計画の作成を完了しています。

○浸水想定区域等を元に居住誘導区域を設定するなど、流域市町にて災害リスクを考慮した土地利用の検討を行っています。

○毎年開催される流域治水協議会において、流域治水プロジェクト更新等、内水被害軽減に向けた取り組み等を共有しています。

市町名	立地適正化計画作成
沼津市	H31.3
長泉町	H30.7
清水町	R3.3
三島市	R1.8
函南町	H31.3
伊豆の国市	H30.6
伊豆市	R6.3

## 立地適正化計画 流域市町作成状況



伊豆市 立地適正化計画

## 令和6年度 狩野川流域治水協議会

日時:令和7年2月25日

関係機関:流域自治体、静岡県、関東森林管理局、  
静岡气象台 等

議事：各自治体の流域治水の取り組み状況について、流域治水の自分事化に向けた取り組み計画・ロードマップ、特定都市河川指定に向けて等



## 令和6年度 狩野川流域治水協議会開催状況

## 狩野川水系 流域治水プロジェクトの内容

### ● 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道掘削、堤防整備、河道拡幅、橋梁改築
  - ・流出抑制対策  
(貯留施設、水田貯留 等)
  - ・内水被害軽減対策  
(排水機場整備、既存排水機場の遠隔操作化、近年の洪水被害軽減目標と対策を定めた水災害対策プランの策定 等)
  - ・砂防施設の整備
  - ・森林整備・保全
  - ・海岸施設の保全
- 等

## ●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

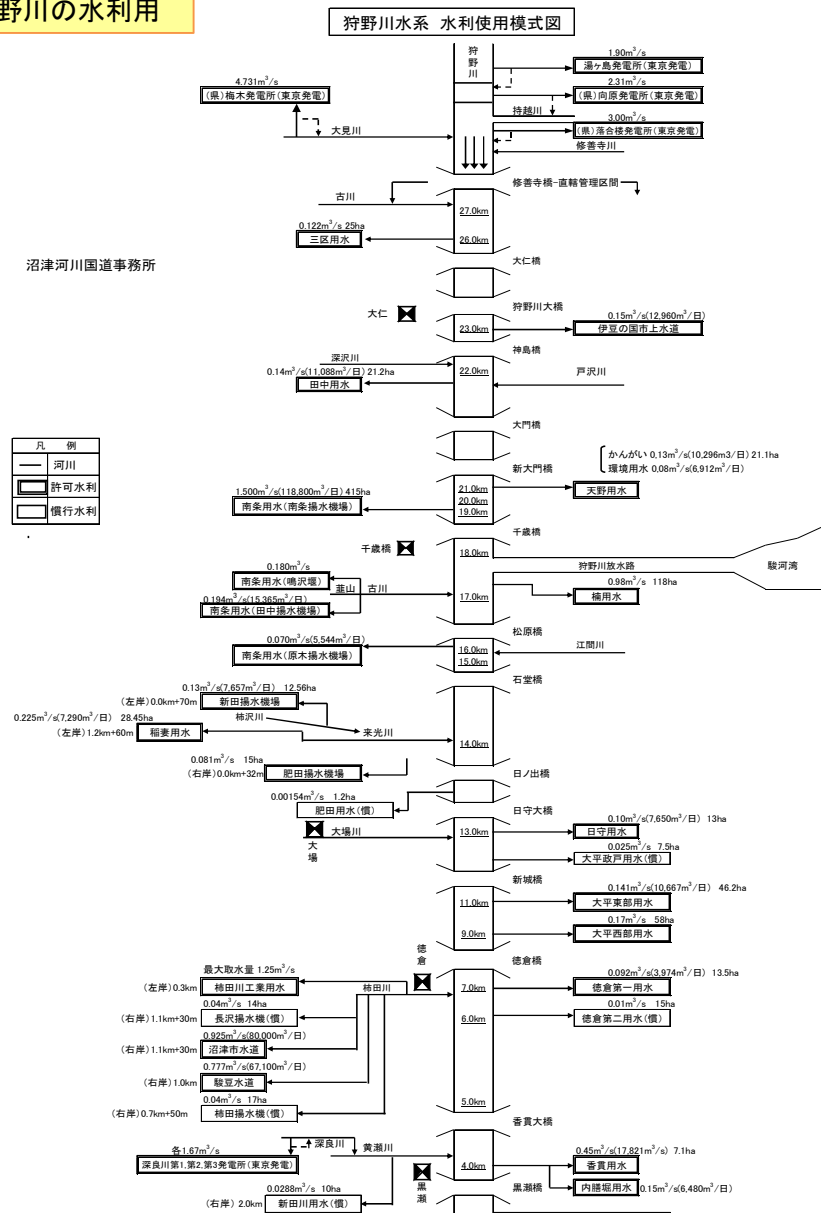
- ・被害軽減対策  
（水害リスク空白域の解消、内水ハザードマップの作成 等）
- ・住民の主体的な避難行動を促す取組  
（ハザードマップの周知および住民の水害リスクに対する理解促進の取組、要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保、防災教育・出前講座による住民の防災意識向上のための取組、マイ・タイムラインを活用した訓練の実施、地区防災計画の推進、官民連携による河川情報の提供 等）
- ・水防体制の強化  
（緊急排水作業の訓練実施、建設業等との連携による災害復旧の迅速化・効率化 等）
- ・ソフト対策のための整備  
（情報収集施設の整備 等）

### ●被害対象を減少させるための対策

- ・防災・減災のための住まい方や土地利用の推進  
(防災指針の追加による立地適正化計画の変更 等)
- ・浸水ハザードエリア等における浸水対策  
(建築物の浸水対策 等) 等

○狩野川(大臣管理区間)では、水道用水、農業用水、工業用水などの水利用がされており、指定区間においては発電用水としても利用されている。  
○近年渇水被害は発生しておらず、正常流量 $6.2\text{m}^3/\text{s}$ を概ね満足している。

## 狩野川の水利用



狩野川水利用模式図(R6. 4時点)

## 主要地点の流況

### 河川現況流況表(大仁地点)

No.	西暦	和暦	最大流量 (m <sup>3</sup> /s)	豊水流量 (m <sup>3</sup> /s)	平水流量 (m <sup>3</sup> /s)	低水流量 (m <sup>3</sup> /s)	濁水流量 (m <sup>3</sup> /s)	最小流量 (m <sup>3</sup> /s)	年平均流量 (m <sup>3</sup> /s)	
1	1969	昭和44年	309.57	25.14	17.88	14.82	10.54	9.67	25.17	
2	1970	昭和45年	217.66	17.63	12.60	9.83	7.86	7.36	18.04	
3	1971	昭和46年	165.13	17.39	12.98	9.38	7.11	6.60	16.10	
4	1972	昭和47年	337.18	25.95	18.69	12.81	9.59	8.19	25.17	
5	1973	昭和48年	102.96	19.97	14.57	11.54	8.74	8.26	17.72	
6	1974	昭和49年	182.16	24.84	16.32	11.41	7.01	6.58	22.94	
7	1975	昭和50年	178.38	24.72	18.01	14.32	8.96	7.88	22.77	
8	1976	昭和51年	356.12	24.48	18.40	14.27	9.63	8.69	23.98	
9	1977	昭和52年	245.42	21.26	13.33	10.16	7.70	6.92	22.36	
10	1978	昭和53年	178.46	12.78	10.88	9.53	7.70	7.26	13.04	
11	1979	昭和54年	361.17	19.65	13.34	9.96	7.17	6.79	19.37	
12	1980	昭和55年	175.33	26.20	18.58	14.99	10.74	9.83	24.02	
13	1981	昭和56年	287.87	19.68	14.68	11.11	9.12	8.59	19.19	
14	1982	昭和57年	740.72	27.51	14.81	11.79	5.09	5.03	27.82	
15	1983	昭和58年	823.40	24.55	17.26	14.23	9.76	9.21	25.90	
16	1984	昭和59年	127.58	10.90	9.21	8.06	6.41	6.02	10.81	
17	1985	昭和60年	489.56	18.17	12.69	9.98	5.80	4.82	18.82	
18	1986	昭和61年	93.46	18.77	13.16	8.03	6.64	4.74	16.05	
19	1987	昭和62年	127.49	16.41	12.44	9.50	6.99	6.84	15.31	
20	1988	昭和63年	223.51	20.48	13.40	8.30	5.96	5.52	20.00	
21	1989	平成元年	259.27	29.49	20.59	14.60	7.57	6.12	27.47	
22	1990	平成2年	380.66	23.08	16.87	13.72	9.15	8.30	24.96	
23	1991	平成3年	576.69	26.65	17.66	12.95	10.34	8.64	29.57	
24	1992	平成4年	208.25	26.27	19.41	14.82	10.44	9.63	25.12	
25	1993	平成5年	248.65	26.65	16.87	13.18	9.80	8.52	24.47	
26	1994	平成6年	142.23	14.41	11.97	9.68	6.84	6.41	14.42	
27	1995	平成7年	262.89	18.98	10.79	8.06	5.58	5.42	18.12	
28	1996	平成8年	243.68	14.36	10.80	7.67	6.11	5.29	13.92	
29	1997	平成9年	208.09	13.83	10.29	8.65	7.46	7.02	14.03	
30	1998	平成10年	510.33	33.67	22.21	15.38	8.89	8.11	31.52	
31	1999	平成11年	239.42	22.24	15.88	10.35	6.49	6.16	21.59	
32	2000	平成12年	205.52	20.32	14.45	9.85	7.47	7.06	17.88	
33	2001	平成13年	618.75	20.84	14.07	11.36	9.07	8.06	21.45	
34	2002	平成14年	371.25	21.59	15.42	12.68	9.24	8.74	22.66	
35	2003	平成15年	713.60	26.59	19.42	15.15	9.28	8.27	28.50	
36	2004	平成16年	279.66	24.89	18.73	14.35	10.82	10.25	25.32	
37	2005	平成17年	1706.67	18.38	13.88	11.38	7.95	7.40	19.01	
38	2006	平成18年	296.60	19.17	14.54	12.09	7.76	7.21	18.80	
39	2007	平成19年	512.59	18.87	14.24	12.25	10.40	9.71	24.08	
40	2008	平成20年	252.12	28.37	18.05	13.50	10.47	9.98	26.13	
41	2009	平成21年	159.43	21.96	16.63	13.74	11.23	10.91	20.75	
42	2010	平成22年	149.10	26.22	18.37	14.52	10.91	10.66	23.27	
43	2011	平成23年	397.77	21.01	15.40	12.17	9.70	9.34	21.44	
44	2012	平成24年	374.93	21.34	14.11	10.27	7.62	7.03	21.27	
45	2013	平成25年	317.27	17.45	12.53	10.42	8.68	7.16	欠測	
46	2014	平成26年	498.33	20.16	14.20	10.94	8.72	8.36	20.22	
47	2015	平成27年	欠測	23.48	16.75	13.89	10.74	欠測	欠測	
48	2016	平成28年	331.75	24.51	17.39	14.18	11.11	10.67	24.33	
49	2017	平成29年	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	
50	2018	平成30年	207.65	25.48	17.73	12.35	9.33	8.92	23.81	
51	2019	令和元年	951.29	25.42	16.01	9.37	7.56	7.24	26.05	
52	2020	令和2年	195.15	24.94	17.26	13.39	9.61	9.03	26.74	
53	2021	令和3年	570.45	20.60	14.77	11.37	7.60	6.99	21.37	
54	2022	令和4年	586.55	20.66	14.03	9.39	6.11	5.16	19.35	
55	2023	令和5年	527.78	18.35	12.69	9.02	6.65	5.59	17.64	
H26～R5			平均	483.62	22.62	15.65	11.54	8.60	7.75	22.44
			最大	951.29	25.48	17.73	14.18	11.11	10.67	26.74
			最小	195.15	18.35	12.69	9.02	6.11	5.16	17.64
全期間 (S44～R2)			平均	362.78	21.79	15.32	11.68	8.43	7.70	21.54
			最大	1706.67	33.67	22.21	15.38	11.23	10.91	31.52
			最小	93.46	10.90	9.21	7.67	5.09	4.74	10.81



本文新旧 対照表No.	本文(一部抜粋)	分類	掲載種等※1	区分	根拠※2	調査年度	備考※1
8	天城山系を流下する上流部は、 <b>カシ</b> や <b>カエデ</b> 類等の自然植生が残された渓谷であり、 <b>アマゴ</b> 、 <b>カジカ</b> 等の清流に生息する魚類が多い。また浄蓮の滝など随所に点在する滝が変化に富む景観を形成している。	植物	カシ	上流部	環境省調査	H20	群落:ウラジログラン群落、シイ・カシ二次林 等
		植物	カエデ	上流部	環境省調査	H20	群落:イロハモミジ・ケヤキ群集 等
		魚類	アマゴ(環NT, 静VU)	上流部	静岡県調査	H13, H18, H23, H28, R3	
		魚類	カジカ(環NT, 静NT)	上流部	静岡県調査	H23, H28, R3	
9	田方平野を蛇行しながら流下する中流部は、連続する瀬や淵と中洲などが見られ、アユ釣りで賑わっているとともに、水際から高水敷にかけて <b>ヨシ</b> 、 <b>ヤナギ</b> 等が連続的に繁茂し、多様な生物の生息・生育・繁殖地となっている。	植物	ヨシ	中流部	国交省調査	H7, H17, H20, H25, H30	群落:ツルヨシ群落、ヨシ群落 等
		植物	ヤナギ	中流部	国交省調査	H7, H17, H20, H25, H30	群落:ジャヤナギ・アカメヤナギ群集、タチヤナギ群集(低木林) 等
10	また、河口部には小規模ながらも <b>シギ</b> 、 <b>チドリ</b> 類の渡りの中継地ともなる干潟が存在している。狩野川本川には堰等の横断工作物はなく、 <b>アユ</b> 、 <b>カマキリ</b> ( <b>アユカケ</b> )、 <b>ウツセミ</b> <b>カジカ</b> 等の回遊魚が概ね全川を通して確認されている。	鳥類	シギ、チドリ類	下流部	国交省調査	H6, H10, H14, H21, R1	イカルチドリ(静NT)、イソシギ、オオソリハシシギ(環VU, 静N-II)、オバシギ、キアシシギ、キョウジョシギ、コチドリ、チュウシャクシギ 等
		魚類	アユ	下流部	国交省調査	H8, H13, H18, H23, H28	
		魚類	カマキリ(アユカケ) (環VU, 静VU)	下流部	国交省調査	H13, H18, H28	
		魚類	ウツセミカジカ(静VU)	下流部	国交省調査	H13, H18, H23, H28	
11	ミシマバイカモをはじめとする希少な水生植物や、一般的には河川の中・上流部に生息する <b>アマゴ</b> のほか、 <b>カワセミ</b> ・ <b>ヤマセミ</b> 等の生物を育むほか、河岸が緑で連続的におおわれ水と緑の織りなす良好な自然環境を形成しており、都市域の憩いの空間として多くの人々に親しまれている。一方、 <b>特定外来生物であるオオカワヂシャ</b> などの外来種の侵入も見られ、在来の希少な水生植物への影響が懸念されている。	植物	ミシマバイカモ	支川柿田川	国交省調査	H12, H17, H25, H30	
		魚類	アマゴ(環NT, 静VU)	支川柿田川	国交省調査	H8	
		鳥類	カワセミ	支川柿田川	国交省調査	H6, H10, H14, H21, R1	
		鳥類	ヤマセミ(静EN)	支川柿田川	国交省調査	H14	
		植物	オオカワヂシャ(特外)	支川柿田川	国交省調査	H17, H20, H25	
12	狩野川水系最大の支川である黄瀬川は、御殿場市に源を発し、湧水や雪解け水を集めて富士山の噴火で流出した三島溶岩流の岩盤を削りながら南流し、下流部は扇状地を形成して田方平野の一部を占める。 <b>アユ</b> 等の回遊魚や <b>カワセミ</b> 、 <b>ヤマセミ</b> 、 <b>カモ</b> 類の鳥類など多くの生物の生息・生育・繁殖地となっている。	魚類	アユ	支川黄瀬川	国交省調査	H13, H18, H23, H28, R3	
		鳥類	カワセミ	支川黄瀬川	国交省調査	H14, H21, R1	
		鳥類	ヤマセミ(静EN)	支川黄瀬川	国交省調査	H14	
		鳥類	カモ類	支川黄瀬川	国交省調査	H14, H21, R1	コガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、マガモ 等

※1:種名の後の括弧書きは、重要種または外来種としての指定状況を示す。

環:環境省レッドリスト2020(EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:地域個体群)

静:静岡県レッドリスト2020(EX:絶滅、CR:絶滅危惧ⅠA類、EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:地域個体群、N-I:現状不明、N-II:分布上注目種等、N-III:部会注目種)

特外:特定外来生物

※2:国交省調査:河川水辺の国勢調査(沼津河川国道事務所) 【出典】河川環境データベース「<http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/>」(国土交通省)

環境省調査:自然環境保全基礎調査 【出典】自然環境保全基礎調査「[https://www.biodic.go.jp/kiso/fnd\\_list\\_h.html](https://www.biodic.go.jp/kiso/fnd_list_h.html)」(環境省)

静岡県調査:静岡県河川水辺の国勢調査 【出典】令和3年度一級河川狩野川水系河川調査(水辺の国勢調査)業務報告書(2021, 静岡県)

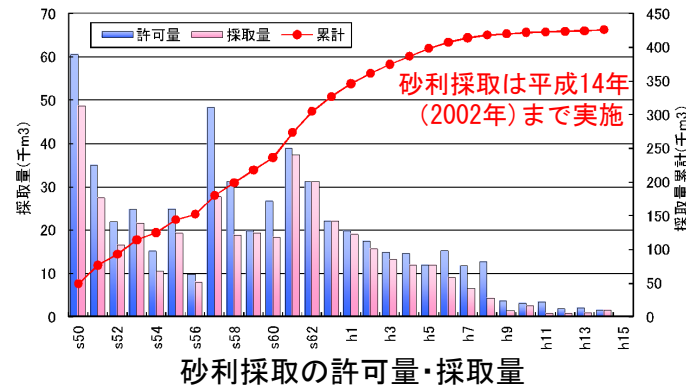


本文新旧 対照表No.	本文（一部抜粋）	分類	掲載種等※1	区分	根拠※2	調査年度	備考※1
57	上流部においては、アマゴ、カジカ等の生息・繁殖環境となる連続した瀬と淵を保全するとともに、アユ等が生息しており、生息・繁殖地としての河川環境の保全・創出を図る。	魚類	アマゴ（環NT, 静VU）	上流部	静岡県調査	H13, H18, H23, H28, R3	
		魚類	カジカ（環NT, 静NT）	上流部	静岡県調査	H23, H28, R3	
		魚類	アユ	上流部	静岡県調査	H13, H18, H23, H28, R3	
58	中流部においてはアユやカマキリ（アユカケ）、ウツセミカジカ等の生息・繁殖環境となる連続した瀬と淵の保全や移動の連続性の確保を図るとともに、トンボ類やチョウ類、セッカ等の鳥類の生息・繁殖地となる水際植生や河畔林等の保全・創出を図る。	魚類	アユ	中流部	国交省調査	H8, H13, H18, H23, H28, R3	
		魚類	カマキリ（アユカケ）（環VU, 静VU）	中流部	国交省調査	H18, H23, H28, R3	
		魚類	ウツセミカジカ（静VU）	中流部	国交省調査	H13, H18, H23, H28, R3	
		陸上昆虫	トンボ類	中流部	国交省調査	H6, H11, H16, H26	アオハダトンボ（環NT, 静NT）、ウスバキトンボ、シオカラトンボ、ニホンカワトンボ（静EN）、ハグロトンボ、ホソミオツネントンボ（静EN）、ホンサナエ（静VU）、ミヤマアカネ、ギンヤンマ等
		陸上昆虫	チョウ類	中流部	国交省調査	H6, H11, H16, H26	オオチャバネセセリ（静N-Ⅱ）、キタテハキタホソバ、ギンイチモンジセセリ（環NT, 静N-Ⅱ）、コムラサキ（静N-Ⅱ）、サトキマダラヒカゲ（静N-Ⅲ）、ツバメシジミヒメジャノメ（静N-Ⅲ）、ベニシジミ、モンシロチョウ等
		鳥類	セッカ	中流部	国交省調査	H6, H10, H14, H21, R1	
59	下流部においては、シギ・チドリ類の渡りの中継地やカモ類の集団分布地、ニホンウナギが生息する等、多様な生物の生息・生育・繁殖環境となっている干潟を保全・創出するとともに、アユ等の生息地である水域環境の保全・創出を図る。	鳥類	シギ、チドリ類	下流部	国交省調査	H6, H10, H14, H21, R1	イカルチドリ（静NT）、イソシギ、オオソリハシシギ（環VU, 静N-Ⅱ）、オバシギ、キアシシギ、キョウジョシギ、コチドリ、チュウシャクシギ等
		鳥類	カモ類	下流部	国交省調査	H6, H10, H14, H21, R1	オカヨシガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、コガモ、ハシビロガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、マガモ等
		魚類	ニホンウナギ（環EN, 静EN）	下流部	国交省調査	H28, R3	
		魚類	アユ	下流部	国交省調査	H8, H13, H18, H23, H28	
60	今後も柿田川のミシマバイカモやナガエミクリ、アマゴ等が生息・生育・繁殖する貴重な湧水環境や、アユやカマキリ（アユカケ）、ウツセミカジカ等が狩野川本川と自由に行き来できる連続性の保全・創出を図る。	植物	ミシマバイカモ（静VU）	支川柿田川	国交省調査	H12, H17, H25, H30	
		植物	ナガエミクリ（環NT, 静NT）	支川柿田川	国交省調査	H12, H17, H25, H30	
		魚類	アマゴ（環NT, 静VU）	支川柿田川	国交省調査	H8	
		魚類	アユ	支川柿田川	国交省調査	H13, H18, H23, H28, R3	
		魚類	カマキリ（アユカケ）（環VU, 静VU）	支川柿田川	国交省調査	H13, H18, H23, H28	
		魚類	ウツセミカジカ（静VU）	支川柿田川	国交省調査	H13, H18, H23, H28, R3	
61	支川黄瀬川においては、多様な生物の生息・生育・繁殖地となっている瀬と淵や水際植生等を保全・創出するとともに、アユ等が生息・繁殖しており、生息・繁殖地としての河川環境の保全・創出を図る。	魚類	アユ	支川黄瀬川	国交省調査	H13, H18, H23, H28, R3	

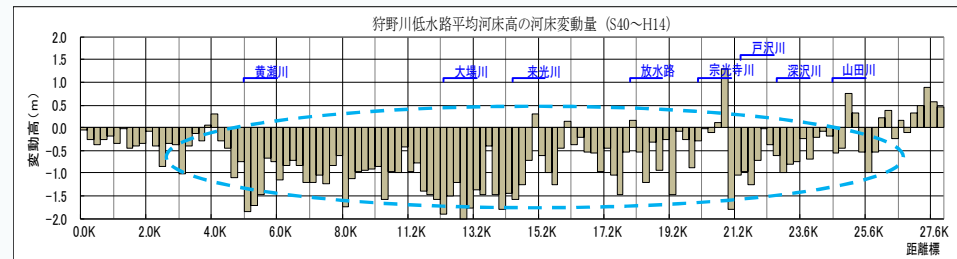
# 【参考④】狩野川の河床変動状況

- 狩野川では、砂利採取が平成14年(2002年)まで実施されており、河床高は低下傾向にある。
- 砂利採取の終了以降、狩野川の河床高は、堆積・洗掘を繰り返し概ね安定している(部分的な維持掘削等の区間を除く)。
- 河床材料の代表粒径について経年的に比較した結果、顕著な変化は見られない。

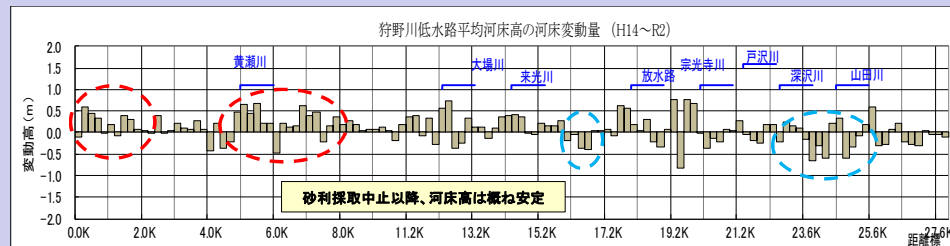
## 河道領域



## S40~H14

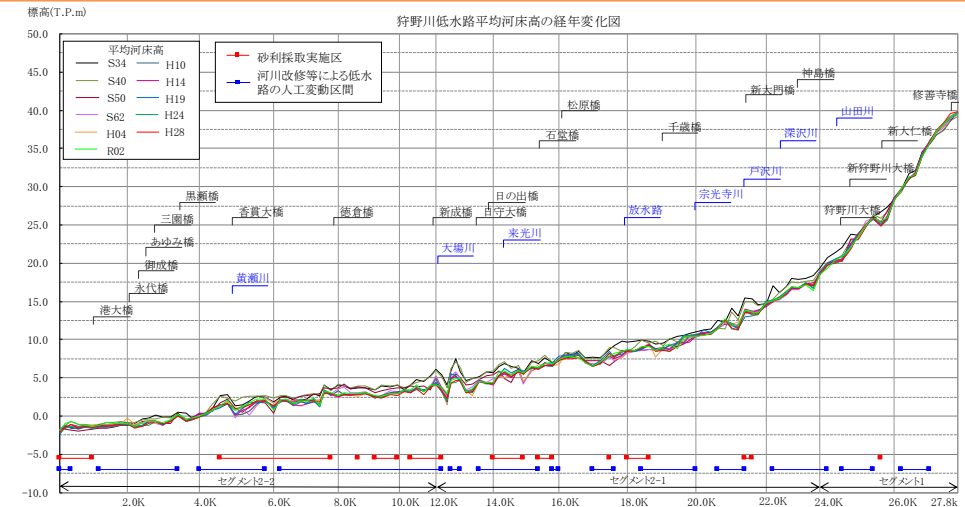


## H14~R2

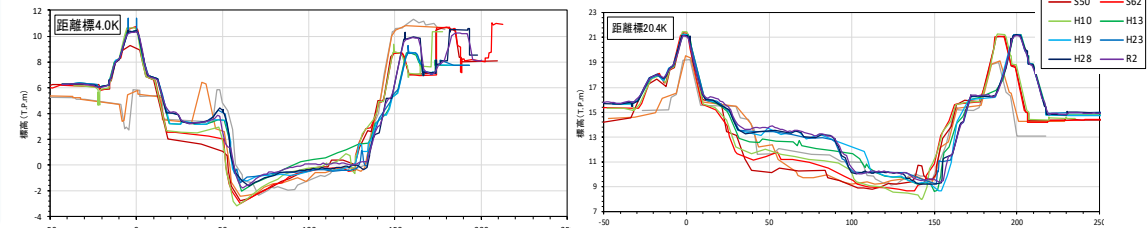


--- : 堆積傾向の区間 --- : 洗掘傾向の区間

平均河床高の河床変動量

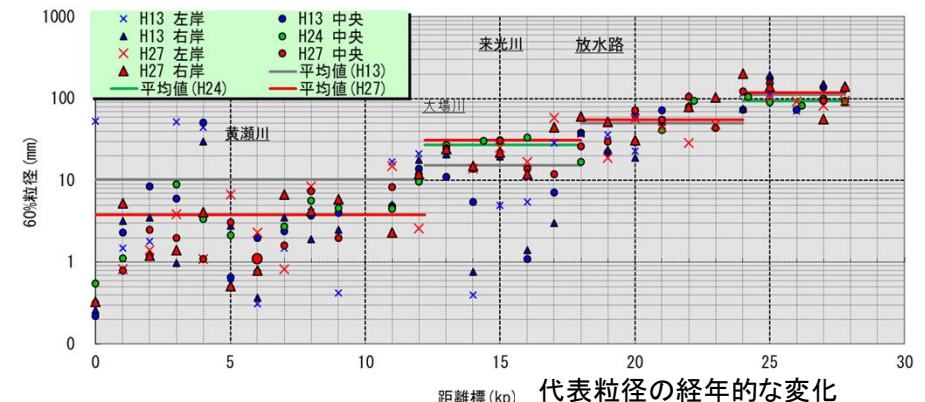


## 縦断面



## 横断面図(距離標4.0K)

## 横断面図(距離標20.0K)

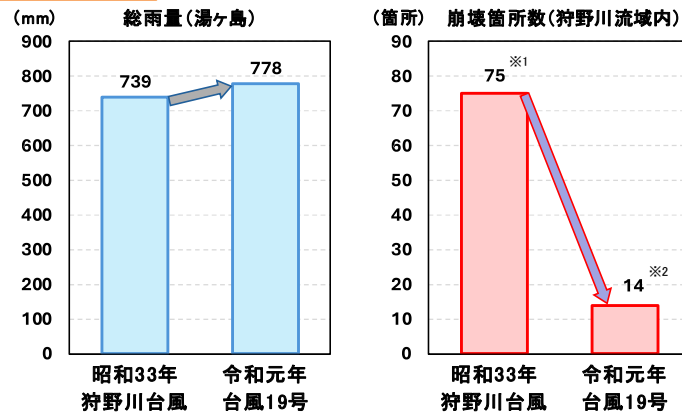




## 【参考④】山地(砂防)領域の状況

- 伊豆半島は火山活動によって形成されており、豪雨によって崩壊が生じやすい地質となっている。
- 狩野川水系では、昭和33年の狩野川台風を契機に昭和34年より狩野川直轄砂防事業として、これまで136基の砂防施設を整備してきた。
- 令和元年東日本台風は、総雨量では昭和33年の狩野川台風を超える豪雨となったが、一部で斜面崩壊等が発生したものの、整備された砂防堰堤等が効果を発揮し、流域内において大きな被害は発生していない。

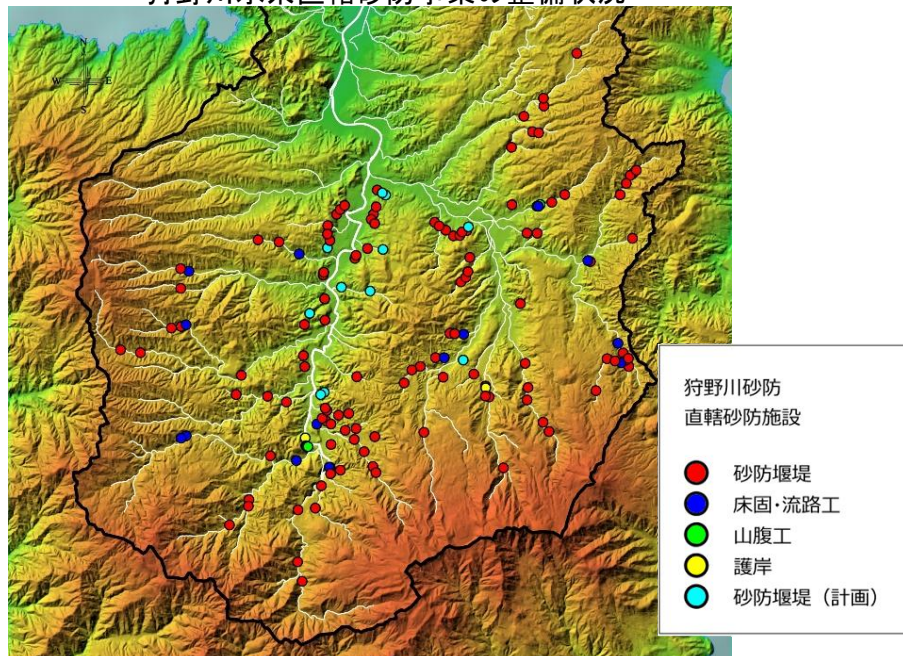
### 山地(砂防)領域



出典:『令和元年10月 台風第19号』出水概要  
令和元年11月13日 国土交通省 中部地方整備局

※1 狩野川台風災害誌  
※2 10月16日時点 土砂災害件数【第9報】

### 狩野川水系直轄砂防事業の整備状況



狩野川台風(S33)による狩野川上流の被災状況(旧修善寺町熊坂地区)



狩野川台風(S33)による崩壊 大見川の蛇喰山



令和元年東日本台風における長野川左岸での斜面崩壊



令和元年東日本台風における加殿地区における農地の一部被災



台風通過前



台風通過後

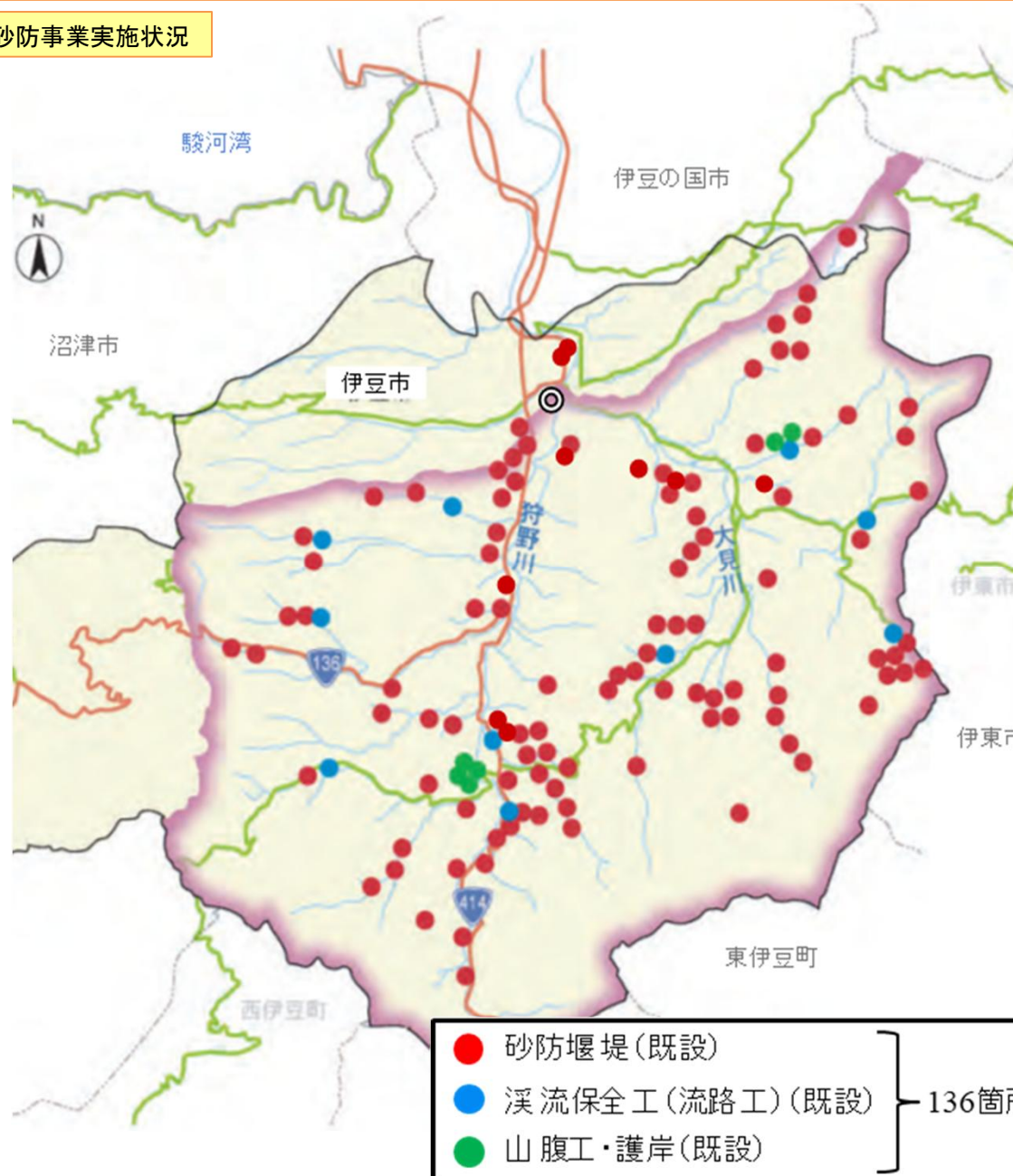
土砂を捕捉

令和元年東日本台風に伴う流出土砂の捕捉状況(冷小第1砂防堰堤)



- 狩野川上流域では、狩野川台風による被災を契機に直轄砂防事業に取り組んでおり、令和7年12月時点で136箇所には砂防施設を整備しています。
- 狩野川上流域の伊豆市では、森林整備等を行うことで、土砂流出の防止や、治水力向上に寄与する取り組みを行っています。

### 砂防事業実施状況



令和7年10月完成 松沢川第2砂防堰堤

### 森林整備状況(伊豆市)

県・市森林整備事業、森林経営管理制度による間伐を実施  
**約78ha (R6年度見込)**

狩野川源流の治水力向上に寄与



間伐前



間伐後